

船舶事故調査報告書

平成30年1月24日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	沈没
発生日時	不明（平成29年9月19日 19時00分ごろ～20日 06時00分ごろ）の間
発生場所	不明（沖縄県座間味村ムカラク島東岸沖）
事故の概要	プレジャーボート 要丸は、錨泊中、沈没した。
事故調査の経過	平成29年9月28日、主管調査官（那覇事務所）を指名原因関係者から意見聴取実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	プレジャーボート 要丸、1.5トン ON3-37578（漁船登録番号）、個人所有 第296-8478号（船舶検査済票の番号）
乗組員等に関する情報	船長、二級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	アウトドライブが脱落、推進器翼に割損、主機等に濡損（全損）
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北東～南東、風速 約0.4～2.2m/s、 視界 良好 海象：波高 約1.0～1.5m、潮汐 高潮時～上げ潮の末期、潮高 20日00時53分 61cm（干潮）、06時54分 223 cm（満潮） 日没時刻：19日18時31分ごろ 日出時刻：20日06時18分ごろ
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、ムカラク島東岸沖水深約10mのところ船首を南東方に向け、船首の錨を投入し、補助として船尾の錨を海底に降ろした。</p> <p>船長は、錨泊作業を終え、平成29年9月19日19時00分ごろムカラク島に泳いで上陸した際、錨泊中の本船に異状がないことを認めた。</p> <p>船長は、20日06時00分ごろ起床し、ムカラク島東岸沖を見たところ、本船を視認できなかったため、泳いで錨泊場所に向かい、水深約2～3mの岩場付近に沈んでいる本船を認めた。</p> <p>本船は、船首の錨索が破断し、船尾の錨が効いており、取付け部が割れた状態のアウトドライブが付近の海底に脱落していた。</p> <p>船長は、僚船の船長に救助を要請し、来援した僚船に救助され、沖縄県渡嘉敷村阿波連漁港に運ばれた。</p> <p>本船は、船長が16時ごろ手配した船舶でムカラク島東岸沖に戻ったところ、転覆した状態で付近の岩場に漂着しており、同岩場から引き出されたときに船首部が分断されて流失し、被えい航中に船体が海</p>

	<p>面下に没した後、阿波連漁港に帰港した際には船尾部のみとなっていた。</p> <p>本船の残骸は、手配した業者によって回収された。</p> <p>本船のアウトドライブ下端から水面までは、1.0m以下であった。</p> <p>船長は、本船が岩場付近で沈没していたので、干潮時にアウトドライブが海底の岩などに接触して外れ、機関室に浸水して沈没したのではないかと本事故後に思った。</p>
分析	<p>本船は、ムカラク島東岸沖において無人で錨泊中、船長が、19日19時00分ごろ本船に異状がないことを認めた後、20日06時00分ごろ本船を視認できなかったことから、この間において沈没したものと考えられる。</p> <p>本船は、アウトドライブが脱落していたことから、潮が引いた際にアウトドライブが海底の岩などに接触して外れ、機関室に浸水して沈没した可能性があると考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、夜間、本船が、ムカラク島東岸沖において無人で錨泊中、沈没したものと考えられる。</p>
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・錨泊する場合、潮汐等を考慮し、適切に錨地の選定を行うこと。